

# 新製品

# 新技術

## フジコーの光触媒技術・製品のご紹介

光触媒事業企画部 担当：江藤 武  
TEL 093-871-3724 FAX 093-884-0048

### 1. フジコーってどんな会社？

#### ■そもそも何の会社？



株式会社フジコーは1952年に創業者である山本秀祐が、当時は修理不可能と言われた錆型<sup>注1)</sup>の修理法を開発し、創業しました。そして現在に至るまで60余年、溶接・溶射<sup>注2)</sup>・特殊塗装などの金属表面処理の基本技術をベースに、技術開発を生命線として、事業を拡大してまいりました。直近では、光触媒などの環境事業の拡大も積極的に行っています。

注1)「錆型」とは、溶接部から出てきたドロドロの熱い鋼を入れる型のことです。

注2)「溶射」とは、溶融・酸化させた粒子を高速度で基材表面に衝突・積層させて皮膜を形成する技術です。

#### ■会社規模

売上高: 約144億円、従業員数: 約830名

#### ■事業構成



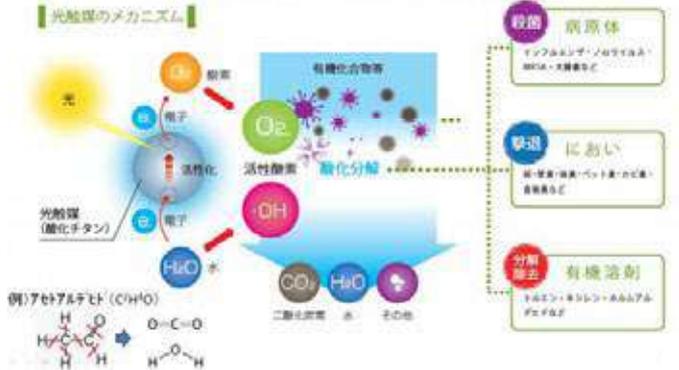
#### ■技術開発センターを設立

2001年に技術開発センターを設立し、2019年に光触媒工場の隣に、新技術開発センターを新築移設しました。センターには、フジコーの開発の過去・現在・未来がわかる展示室やレセプションハウスを設置し、お客様に楽しんで頂けると共に開発者が自由な発想ができる施設となっています。



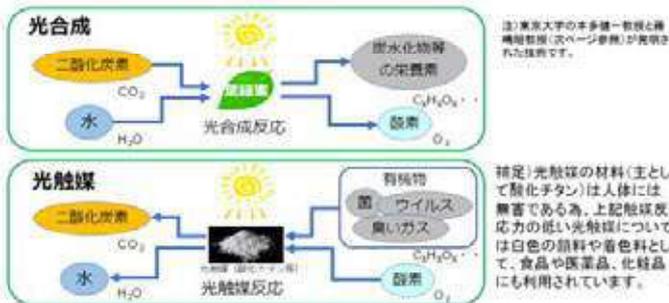
### 2. 光触媒とは？

光触媒は太陽や蛍光灯などの光が当たると、その表面で強力な酸化力が生まれ、接触してくる有機化合物や細菌などの有害物質を除去することができる環境浄化材料です。触媒反応ですので、光がある限り反応は続きます。



### 【参考】光触媒と光合成

植物の光合成は、太陽の光を葉で受け、空気中の二酸化炭素と、大地の水を使って、植物に必要な栄養素である炭水化物等を作るとともに、動物に必要な酸素も作ってくれます。光触媒は、これと逆で、接触した有機物を酸化分解して、二酸化炭素と水に戻してしまう反応です。光触媒反応は、日本発の技術<sup>注1)</sup>で、日本が世界をけん引していると言われており、様々な分野での応用研究が進んでいます。消臭・除菌効果があることから、空気清浄機、住宅や病院のガラスやタイル、自動車の排気ガスに含まれる窒素酸化物(NOx)を無害化するための道路などにも使用が検討されています。



### 3. 藤嶋教授について

藤嶋教授(東大特別榮譽教授)は故本多教授とともに光触媒反応を発見された方であり、ノーベル賞候補とも言われています。藤嶋教授は神奈川県にある光触媒ミュージアムの館長でもありますが、フジコー当社の光触媒技術を使ったJAXAとの共同研究内容を当該ミュージアムに展示しています。

また、藤嶋先生に当社光触媒技術・製品についてのコメントを頂いています。(下記QRコードをスマホで読み取ると、インタビュービデオを見ることができます。)

#### 【フジコー展示ブース】



#### 【藤嶋先生取材動画】



#### 4. JAXAとの共同研究について



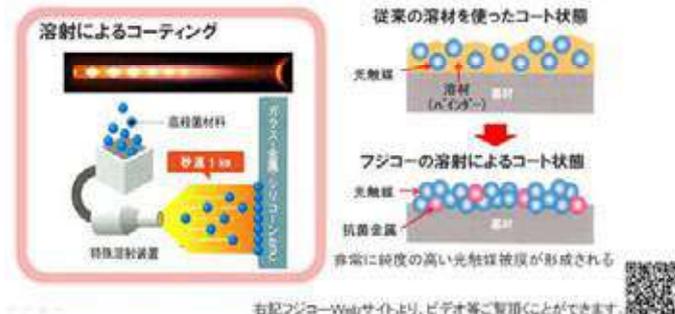
マウス飼育ケージへの技術協力の例



フジコーはJAXA(国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構)と、有人宇宙施設や宇宙船における光触媒をベースとした消臭・殺菌および有毒ガス除去技術の軌道上実証に向けた共同研究を行っています。その一つとして、マウス飼育ケージがあります。これはマウスの様々なストレスを極力減らす為の一つとして、光触媒で飼育ケージ内の除菌・消臭を行うというものです。2015年8月に日本のH-IIB ロケットでISSに打ち上げられ、2016年に大西宇宙飛行士により様々な実験が行われました。実験を終了したマウスは、米国SpaceX社のDragon宇宙船で、同年8月26日に太平洋に着水。マウス全12匹は無事に生存帰還しました。マウスの飼育ミッションは、これまで欧米やロシアでも行われてきましたが、全数生存状態で帰還は世界初の快挙でした。

#### 5. フジコーの光触媒製品の特長

鉄鋼の世界で培った独自の**低温高速溶射**の特許技術により、非常に純度の高い光触媒成膜を実現しました。通常の溶射だと非常に高温(約2千度)なのですが、これだと光触媒が変質劣化してしまいます。(8百度以下の低温にする必要がある)かといって低温だと、スピードが落ちてしまって、被膜強度が落ちます。この両立を図っているのが当社の特許技術です。

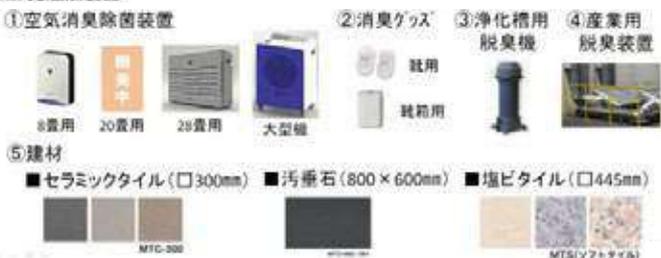


#### 6. フジコーの主な特許技術と開発製品

##### (1) 光触媒関連の主な特許技術

- 溶射温度可変型溶射装置
- アルミ繊維に溶射
- 封孔処理ソフトタイル
- アナターゼ低温溶射
- 可視光応答型ルチル
- 溶射温度可変型溶射装置
- 光触媒被膜に圧縮残留電力
- ラジカル水生成装置構造
- 脱臭ドープ酸化チタン+抗菌金属
- 脱臭ドープ酸化チタン水没水で種子の殺菌
- スラリー溶射
- ジグザグ状ボード遮光マスクソーラーリアクター
- スラリー超音波照射
- 南科用医療機器
- ペーメイド処理

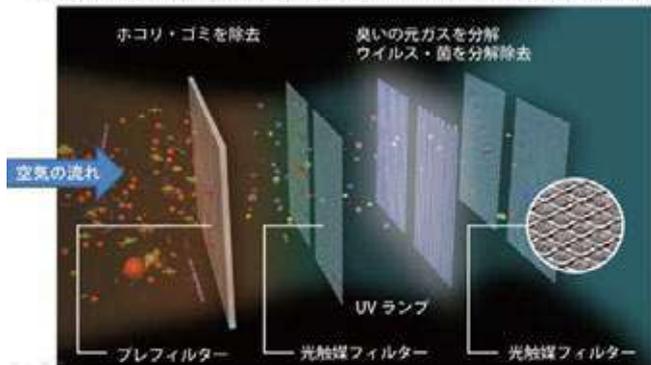
##### (2) 光触媒製品



#### 7. 空気消臭除菌装置

##### (1) 基本的な仕組み

独自に開発したアルミ繊維不織布等に、ハイブリッド光触媒(光触媒+抗菌金属)を被膜したフィルターを使用。内蔵した近紫外線ランプの照射により、光触媒反応を起こし、通過するガスの分解(=消臭)、及び付着した菌・ウイルス等の分解(=除菌)を行います。(下記はMC-T101(20畳用)の内部構造)



##### (2) 一般的な“空気清浄機”との違い

	PM2.5等集塵	菌・ウイルス等除菌	消臭
一般的な方式	HEPAフィルター 花粉等微粒子 菌・ウイルス	イオン等放出	活性炭等の吸着材 臭いガス VOCガス
	・フィルターを通して、塵や菌をろ過する。 ・フィルター上の物質が溜まってしまいうため、繁殖の危険がある。	・壁等に付着した物の除菌、消臭は、多少期待できる。 ・人やペットにも暴露する。	・臭いを素早く吸着することができるが、寿命短命。
光触媒方式	プレフィルター PM2.5等に対応する場合は、別途、プレフィルター等での対応が必要がある。	光触媒フィルター 花粉等微粒子 菌・ウイルス 臭いガス VOCガス	
	PM2.5等の集塵は「光触媒フィルター」は不得意。	菌・ウイルスは、光触媒フィルター上で分解・無害化される。	臭いガスは、光触媒フィルターを通過する際に、分解・消臭される。

主要方式間の比較で、敢えて○×をつけてみると・・・

方式	方式概要	特徴	浄化対象物					安全性	お手入れ	コスト
			臭い	PM2.5	PM10	花粉	ウイルス			
光触媒分解方式	光触媒反応で、菌や有害物質を分解する。	内部で光から分解。 ・触媒反応は光があれば永年有効。	○	△	○	○	△	○	△	○
イオン放出方式	帯電したイオンを外部に放出して、菌や有害物質を不活化する。	触媒反応は良いが、イオンは数分で消滅するので、少し距離が離れると効果的。	△	△	△	△	△	△	△	△
内部放電分解方式	室内内部に電気を取り込み、電気を放出して菌や有害物質を不活化する。	内に放出するより効果性は高いと思われる。	△	△	△	△	△	○	△	△
次亜塩素酸放出方式	次亜塩素酸に浸したフィルター、及び、空気中に揮発させる、揮発、臭気を行う。	殺菌性は高いと思われるが、揮発する為、人にも悪影響が考えられる。(アレルギー体質の方への注意要)	○	△	×	○	×	×	△	△
オゾン方式	オゾンを出して菌や有害物質を分解する。	臭い臭気があるが、人体に害があるのでは無人使用	○	○	△	○	△	×	△	△
HEPAフィルター方式	「物理」的にフィルターで強力なファンで「集塵」する。	PM2.5対策には有効。ただし、菌やウイルスは、フィルターに集まって繁殖の可能性がある。 ・本体は頻りに交換要	×	×	○	△	○	○	×	×
活性炭方式	活性炭の吸着力で臭いや菌を吸着する。	臭いはよくわかるが、活性炭は交換するか、加熱し再生するかの仕組みが必要。	○	○	×	×	×	○	×	×

注)上記は自社独自調査・評価です。

### (3)ユーザーにとってのメリット

～ ブルーデオ (MC-S101 8畳用) のカタログから ～

#### 1. 元から分解するから安心

一般の空気清浄機のフィルターは、菌やウイルス、臭いとなるガス成分を「吸着」させる方式ですが、BlueDeoは光触媒フィルターで「元から分解して除去」します。

#### 2. お手入れが簡単

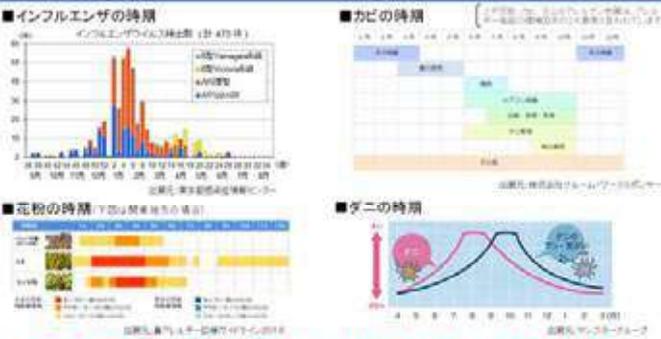
フィルターに付着した有機物を分解除去しますので、光触媒フィルターの買い替え・交換は不要<sup>※</sup>。面倒なタンクの洗浄、専用液剤の補充なども一切ありません。

#### 3. 軽量・コンパクト

A4より小さいサイズ  
ファンとフィルターを小型化。机やチェストの上など、色々なところに置いて移動も楽々です。

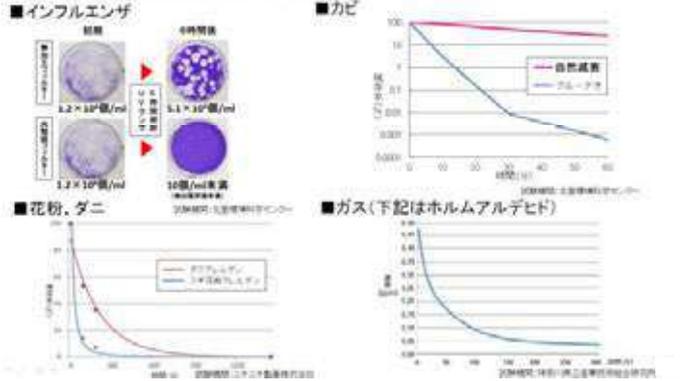


### (4)消臭除菌装置いつ必要か？(季節性)



### (5)その課題にフジコー製品はどう応えるのか？

①本体内部に内蔵された光触媒フィルターとUVランプにより、フィルターに捕獲された菌・ウイルスを分解して無害化するするとともに、フィルターを通過する臭いガスを分解することにより消臭します。



②空気中のダストの収集よりも「消臭」「除菌」に特化しています。そして、それを、(何かを外部に振りまくのでなく)光触媒を使って、本体内部で、安全にそれを行う商品です。

- A) 一般の消臭除菌機は、その効果を高める為、イオン、オゾン、次亜塩素酸など、様々な物質を室内に放出する製品が多いです。(S社、P社、D社などほとんど全て)
- B) どのメーカーも「人体に実害はない」としていますが、仮に大人は良くても、体重の軽い赤ちゃんは？ あるいはもっと体重の軽いペットは？ アレルギーの方は？
- C) 菌やウイルスに効果があるものを振りまくということは、人や動物に対しても何らかの効果(=害)があると考えるのが自然と考えます。
- D) フジコーは「消臭」「除菌」するにあたって、一切、何も外に出さない、空気を内部に取り込んで、臭いの元となる ガス、菌・ウイルスを分解して除去します。
- E) 消臭・除菌をするにあたって「人に何も触れさせない(=外にも何も出さない)」べきであるし、将来的には、それが「当たり前」になっていくと考えています。

【参考】

- イオン放出について  
感染症専門医 武井 智昭医師  
(あるユーザーアンケートにおいて)40%以上の方が「イオン発生機能等」を重視していましたが、イオンは実際の生活空間の中で効果があると言いつても言い切れない側面もあります。イオンはそもそも不安定な物質であることに加えて、使い方や環境によっては、空气中的オゾン濃度が高くなり咳・鼻などの粘膜に刺激を与えるものがあるのです。
- (コロナ対策として)次亜塩素酸噴霧が行われていることについて  
A) 文部科学省 2020年6月7日  
文部科学省は7日までに、新型コロナウイルス感染防止対策として、児童生徒の前で、次亜塩素酸水を噴霧しないよう求める通知を、全国の教育委員会などに出した。「有効性、安全性が明確になっているとは言えないため」としている。  
B) WHOの見解(2020年5月15日)「COVID-19に關する環境表面の洗浄・消毒より」  
消毒剤を人体に噴霧することは、いかなる状況であっても推奨されない。これは、肉体的にも精神的にも有害である可能性があり、感染者の飛沫や接触によるウイルス感染力を低下させることにはならない。  
C) 米国疾病予防管理センター(CDC)の見解  
(「医療施設における消毒と滅菌のためのCDCガイドライン 2008」より)  
消毒剤噴霧は、空気や表面の除菌のためには不十分な方法であり、一般衛生管理には推奨されない。  
D) 中国国家衛生健康委員会の見解(2020年2月18日)「消毒剤使用指南」より  
人がいる状態で空間・空気に対して消毒を行うべきではない。



